

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 大牟田市立明治小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)

所在地 〒836-0012

E-mail meiji-es@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/meiji-es/

幼児児童生徒数 男子 98 名 女子 114 名 合計 212 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、「かかわり、つながり」を活動テーマとして、ESDを、人間性を育むとともに人との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識する教育と捉え、ESDの実践を通して体系的な思考力、持続可能な発展に関する価値観、コミュニケーション能力の育成を目標とした。

具体的には、エネルギー環境教育、福祉教育、国際理解教育を柱に、①地域のひとや環境に係わる活動、②エネルギー環境に関する課題に係わる教育、③文化遺産に係わる学習、④外国語活動と関連させた国際理解に係わる学習を行った。

① ひとや環境に係わる活動

地域の人や環境に直接かかわる活動を通して課題を見出し、主体的に問題解決に向かうようにした。バリアフリーやユニバーサルデザインを調べたり高齢者とふれあったりすることで、その思いや願いを感じ取り高齢になっても、障がいがあっても地域で安心して暮らし続けることができるまちづくりについて考えた。また、校区の川を調べた後、人の生活が環境に影響を及ぼしていることがわかり、川の清掃活動に取り組んだ。

② エネルギー環境に関する課題に係わる教育

エネルギーの消費と環境への影響，環境保全のための取り組みなどについて，系統立てた指導を行う。緑のカーテンを育てたり家庭での消費電力を調べたりする活動を通して，省エネ・省資源について考え，実践した。石炭産業とともに発展してきた市の歴史と公害，そして生活環境に配慮したまちづくりを進めている現在の市の施策について考えることで，持続可能な発展に関する価値観の育成を図ってきた。

③ 文化遺産に係わる学習

エネルギー環境教育との関連から，6年生は，世界文化遺産である三池炭鉱関連施設を見学する「近代化遺産見学会」に参加して，その歴史について調べる学習を仕組んだ。国内有数の炭鉱として栄えた三池炭鉱とその発展を支えた先人の功績について調べることで，大牟田の発展だけでなく，日本全体を支える重要な役目を担っていたことへと思考をつないでいくことができた。この学習を通して，郷土に誇りを持つことができた。

④ 外国語活動と関連させた国際理解に係わる学習

英語活動，外国語活動において，日本の文化や海外の文化に触れる単元を設定して学習を行った。特に，6年生では，自分のおすすめする国の文化や名所などを調べ，フリップをつくって友達に紹介する活動を仕組んだ。また，5年生は，フランスの小学生と環境をテーマに「アートマイル」で，壁画制作を通じた交流を行った。絵と一緒に，一人ひとりがつくったクリスマスカードも送った。



① まちのバリアフリー調べ



② 緑のカーテンづくり



③ 近代化産業遺産見学



④ アートマイル壁画完成

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

「かがやけ!みんなのエネルギー」(資源エネルギー庁)
「私たちの森とくらし」(九電みらい財団)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESD 全体計画を受けたエネルギー環境教育や福祉教育，国際理解教育などの全体計画及び具体的な指導計画を定めている。ESD カレンダーを作成し，各教科等や総合的な学習の時間でどの領域をどの単元で取り上げ，学習していくかを確認して実践に当たり，系統的な学びとなるようにしている。このことで，6年間を通して連続的に学びを深めることができた。

学期ごとに教育活動の評価を行って指導の見直しを図り，年度末の教育課程編成会議において，次年度の実践に向けた指導方法の工夫改善について話し合う時間を設けている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため，どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD 推進委員会を組織し，年間計画の作成・審議を行っている。委員会は，管理職及び ESD 担当，エネルギー環境，福祉，国際理解の各担当者で構成し，ESD の理念に基づいた指導がなされるよう各教育活動の実践を支援している。

また，ユネスコスクールや ESD に関する掲示物，「ユネスコスクールの日記念集会」での各学年の活動報告など学校全体で ESD の学びを共有する取組を行っている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

活動報告のパネルを展示し，保護者や地域の方に見ていただくことで，ESD の内容や意義について具体的に周知することができた。地域とのつながりや人・環境とのかかわりといった面で，自分たちの時代にはなかった学習が行われていることにおおむね好評価をいただいている。学校関係者評価委員会でも，特色ある教育活動として ESD の取組みをプレゼンし，評価してもらっている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

学校HPや市立学校メッセージボードシステム(M-ボード)、学校便りで活動報告を随時行っている。市内で行われるユネスコスクール子どもサミットやE-1グランプリなどの行事に参加し、活動の成果を発表しており、保護者はもとより多くの市民に好評を得ている。エネルギー環境の領域では、九州エネルギー問題懇話会やエネルギー環境教育フォーラムにおいて実践報告を行ったり、電気新聞主催のエネルギー教育賞に応募したりした。それらのことを通して教員の意識も高まり、学校全体で取り組んでいるという一体感を醸成することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

大牟田市コンソーシアムより研修会参加や活動の支援を受け、実践に還元している。環境学習に関しては、「ネイチャーガイド・オオムタ」の方に指導していただき、川の水質調査や生物調査、樹木に関する学習を行った。また、「九電みらい財団」が実施しているエネルギーと環境とのかかわり及び環境保全や水源確保について学ぶ環境学習に参加している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

「アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト」で、フランスの小学校とインターネットを活用して相手と共通のテーマで協働学習を行い、学習の成果として1枚の壁画を共同制作する活動に取り組んだ。今回は環境をテーマに学習し、本校は身近な環境に目を向け川で元気に泳ぐ生き物や笑顔で楽しむ人々の絵をフランスは地球規模の環境問題に目を向けた絵を描き、双方の思いがこもった壁画を完成させた。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

柱としているエネルギー環境、福祉、国際理解の領域においては、低・中・高学年で目標を設定し系統的な指導ができるようにしている。特にエネルギー環境においては、4つの課題（A エネルギーの安定供給の確保、B 地球温暖化問題とエネルギー問題、C 多様なエネルギーとその特徴、D 省エネルギーに向けた取組）を設定し、解決に向けてそれぞれの学年でどのように学習していくのかを教員が考えながら指導に取り組むことができるようになった。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

大牟田版 SDGs の重点目標の中から「3すべての人に健康と福祉を」「7 エネルギーをみんなに」を本校の重点として引き続き活動していく予定である。それぞれのターゲットから小学校段階で取り組んでいけるものを再度確認し、教科や特別活動などの単元、領域との関連を ESD カレンダーと見合わせていながら活動を進めていく。他のゴールについても、現在取り組んでいる単元・領域を中心に活動していく。

また、コンソーシアムが推進する事業にも積極的に参加し、児童の自己有用感や自己肯定感を高めていきたい。